

# 【ねがいはましては】

平成24年11月26日

KYOWA SCHOOL

第265号

「無邪気」

最近、中3のAちゃんが小学一年生の面倒を見てくれるようになりました。夕方の小学生たちのクラスに来てくれ、入ったばかりの小学1年生を相手にお勉強です。小学生クラスが終わり、そのまま簡単な夕食を済ませると、私の席に一番近いところに座ってそのまま勉強に入ります。しかし私は送迎でその場にはいません。でも、Aちゃんは、私が戻ってくるまでの間、無心に机へ向かい続けます。

1年生たちにとって、そろばんは未知との遭遇、しかし彼らの向かい方には気がつかされるものがあります。「楽しむ」の領域が8割以上、この感覚は勉強に対して恐怖心を得てしまった子たちにとって新鮮なものです。

「たす1えん、たす2えん、ひく1えん・・・」声を出しながらはじく風景は遊びそのもの、トーン付きで、ひとつの歌になっています。「間違えたらどうしよう。」などという気持ちなど、どこへやら・・・。

私の中にひとつの願いが現れます。「どうか今の心のままでいてね。」

いつか、「間違えたらどうしよう。」「悪い点、取ったらどうしよう。」「きっとやってもダメだし。」などの、ネガティブな気持ちを身につけてしまうのかな。心配がよぎります。ここでの無邪気さのまま成長してくれないかな。心の中でひとりつぶやきます。

ここへ通う子たちの中で、小学1年生当事から通う高学年の子たちがおりますが、1年生当事小学校のオープンスクールで見せていた無邪気さは、時間がたつにつれ、徐々に影を潜めていきます。「成績」というものに触れるたびに、自分の現状を見つめることになります。数字からやってくるショックは、それまでの明るさを徐々に隠していきます。

やがてやってくる恐怖心。これはクラスの友だちからいただくこともあれば、ご家庭内で親、きょうだいからもたらされるものもあります。一番傷ついているのは当の本人なのですが・・・。徐々に深まる恐怖心は、自信をゼロ状態にしていきます。そして結論。「わたしはバカなのだ・・・。」誰からもそのようなことを言われていなくても、徐々に押し寄せるひとつの思い・・・。

間違えることへの恐怖が、毎日のように押し寄せます。そしてまたひとつの「結論」が表れます。

「間違えなくするには、何もしなければいいんだ。」つまり動かなければミスは出ないわけですから、手を挙げることなど禁じ手になります。そしてやってきたネガティブな学校生活・・・。

1年生たちにとっての今のそろばんはゲーム感覚そのものです。それでいいからね。勉強だってそれでいいのだよ。たくさん間違えて、たくさん動いて、たくさん吸収しましょう。

ちがう日、1年生のMちゃんは、私が教室に到着する前に早々と教室に現れます。お姉さんと一緒にやってきます。そして思い思いに漢字の練習をしています。上に突き抜けてはならない漢字が、堂々と突き抜けています。でも、「M、かんじ好き！」と言いながら無邪気に書き込んでいます。「あれー、あたらしい漢字を作っちゃったんだ！」と、私。「じゃー、正しい漢字を書いてあげるから、なぞって練習しようよ！」と、メモに3～4回ほど漢字を書き、渡します。

やはり心の中で念じます。「このまま無邪気に楽しみ続けてね・・・。」

私は最近、この1年生たちが繰り広げる無邪気な行動こそ『真の学び』なのではないかと思うようになりました。

合うとか間違えるとか、そんなことはお構いなし。とにかく前に向かい続ける。ポジティブ以外の何もありません。

その向かう姿勢が、徐々に姿を消してゆく・・・。原因は・・・。

やはり子どもたちにとってテストはいらぬではないか・・・。

先ほどの中3のAちゃん、1年生クンたちに触れ合うようになってから、俄然前向きになっています。失敗を恐れず、ただ前を向くだけ。教えるはずのAちゃんが、実はこころの面で1年生たちから教えられている・・・。

やっぱり学校へ入ったばかりの子たちは、先天的な「ひと」のもつ当たり前なものを持っている。それは、「生きようとする・・・。」

質問に来ない子。声が小さい子。じっとしている子。わかっていないのに、「あっ、そうか！」と、思わず言ってしまう子。ペンを走らせるところを見ていると、緊張のあまりに書くスピードが落ちてしまう子。ただただ書きなぐっているだけで、本当は何も入っていない、やっているふりの子。やたらケシゴムを多用する子。まだまだたくさん出てきます。これらの子たちは、皆、こころのどこかにキズを負い、前向きをなくしてしまった子たちです。

この11月、中学生たちは定期テストへ向けて、それぞれの生き方をしました。学校から直接やってくる子。「先生た дайいまー・・・」私はすかさず「さよならー」

私が2階で仕事をしていると、やってきた中学生が「先生いますかー・・・」すかさず「先生いなーい」と私。こんなやりとりが日常のこの空間・・・。

生きるってこんなにしあわせな事なんだ、かみしめている子たちがいます。

やがて帰ってくるテスト結果、でも、どうかお父さん、お母さん、こんなにも前向きに生きようとしているお子さんに、生き方「100点」をつけてあげてください。それにしても、君たち・・・ありがとね！